

週寫
報眞

編輯部報情閣内

ンセ十・號八廿第・日四廿月八

（昭和十一年八月廿四日） 第一四〇五號（發行） 郵令八號

時局と海運





時局と海運

逓信大臣 永井柳太郎

わが國は四面環海であるといふよりも海の中の島嶼である。従つて我が國の永い歴史を通じてこの海國といふ大興の地理的條件が國運の伸張に密着する所極めて大なるものがあつた。この好運の下に纏まれたわが國運は幾十年の間目撃せし、突進を遂げ、今や優秀なる海軍艦隊が、世界の隅々まで日章旗を飄揚するに至つた。

多年に亘り官民一致の努力に依り鋭意増進したわが海運の實力は今次事變に際會して十分に發揮すること出来、或は軍の設備に應じ國防第二陣として重要任務に服し、或は國內産業延びて戦後國民生活に必要な物資の輸送に當るなどの非常時局に對應してよくその國家的使命の達成に遺憾なきを期しつゝあるのである。周知の如く海運關係收入は所謂貿易外收入の尤たるものとして國際債借に密着する所大なるものがあるが、最近の貿易の情勢に鑑みるに我が海運に期待せらるゝ所は益々重きを加へ來つたことを忘れてはならない。

北支、中支に於ける經濟開發の進捗に伴つて對支航線を一段と強化する必要は益々緊切なるものがある。目下政府當局に於て之が具體化に努めてゐる。

海運が經濟上並に國防上重要な役割を有することを想ひ、海上に將又燈塔に人知れぬ困苦を忍び難と雖も、ひたすら航路の一路を歩みつゝある人々の勞苦を察する時、我々海國日本の國民たるものは是等海運第一線戰士に對して衷心より感謝し同情せしむるにあらざれないのである。

「海洋を支配するものは世界を支配する」とまで謂はれてゐる。わが海運の健全なる發達の爲に國民諸君の深い理解と強い協力とを希望してやまない。

撮影 木村伊兵衛



夏の

腸疾患

治療に
豫防に

ビオフェルミン

暑熱、腐敗性食餌、暴飲暴食、生水、氷水、未熟な果物等起因して頻發する……

腸カタル、下痢
食傷、消化不良
小兒下痢、緑便
細菌性下痢等



整腸
ビオフェルミン中の乳酸菌は腸内腐敗及び異常菌叢を除き腸機能正常に復して下痢症を安全に消退せしむ。

殺菌
この乳酸菌は、同時に腸内の有害細菌を死滅せしめ、毒素の吸収を防ぎ、腸内容を清淨ならしむ。

消化
ビオフェルミン中の糖化菌は澱粉及び蛋白質を消化し栄養分の吸収を佳良ならしめ便通を調整せしむ。

**傳染性腸疾患
豫防と保健に**

ビオフェルミンの常用は投劑腸炎、赤痢、腸チフス、コレラ等の恐るべき傳染性腸疾患に對し、豫防と強腸の効果を收む。

甘美味、服用容易なる
即ちと服用、各藥房にあり

發賣元 株式会社 武田長兵衛商店
大原市東區道徳町
製造元 株式会社 神戸衛生實験所
神戸市林田區二番町

米航東路洋線



活躍する我が国船隊



日本の船会社のカウンターに船客を申し込む外国人夫妻。安全にして快適な日本商船に乗船する為には後等により支拂はれる外貨は年二億圓に近く、国際貸借改善に貢献するところ極めて多い。



北米航路桑港線



わが商船隊は日章旗をひるがへし、ほとんど世界中、ありとあらゆる異國の港々に、その航跡を刻み残してある。今こゝまで、ポルトガル、スペイン、オランダ、フランス、ドイツ等の新界の諸先達國をわづか半世紀足らずで追いつくまでには、激しい競争の裡に漢の

カリフォルニア航東路洋線



洋洲線



我が國の海運

通信省

日本は、日清、日露の兩國役と世界大戦を契機として、船隻は漸次増加し、僅々半世紀にして世界海運界に進出。英米についで世界第三位の海運國となり、史上稀にみる急速な發展を遂げた。

一國の貿易の大部分を他國の船隻に依存させるやうでは一國有事の際には勿論、平時でも國民經濟が破綻され危殆に瀕することがないとは決していへない。即ち海運は正に國家の重要産業として貿易と共に國の命脈と見做され、國運を遂ぐべき宿命的關係にあるのみならず、時には貿易の先驅となり、わが商船隊の旗を掲げる所必ず、わが商品の進出を見る。海運は貿易促進の鍵としてまことに大きな使命をもつてゐる。

2、獨立産業として國際貸借の點から
日本は元來、輸入超過國である。したがって、國際貸借の改善にはどうも貿易外の受取勘定の項目中貨物を含む海運業収入の増加をばかすことが最も効果的なことになつてくる。

3、國防の點から
世界大戦において、わが國では臨時船舶管理令なる緊急勅令で國家が管理に當らねばならぬ必要を感じたが、英米などはその貿易の殆ど大部分を外國船の運送に頼つてゐたため、戰爭が始まるやこの外國船が夫々の政府に徴發され又は他の航路にうつしたために軍需に非常な苦い難題をなめさせられた。

今度の支那事變では、わが國多數の優秀な船隻がこぞつて海運業の實をあげて、一方一戰海運業において臨時船舶管理法を制定して、海運をどうも重要事業に選定することがあつた。海運業の發展、物資の調運、對外航路の維持等、國家の必要とする方向に向つて適正に運行させるやうな注意が拂はれてゐる。

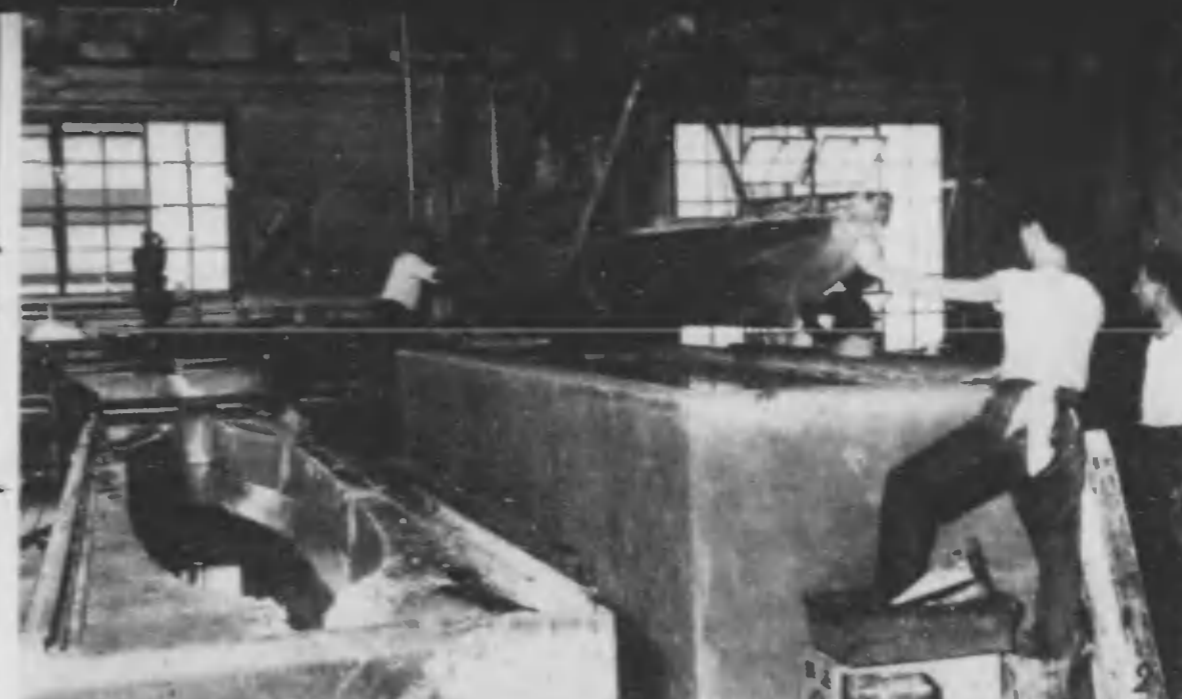
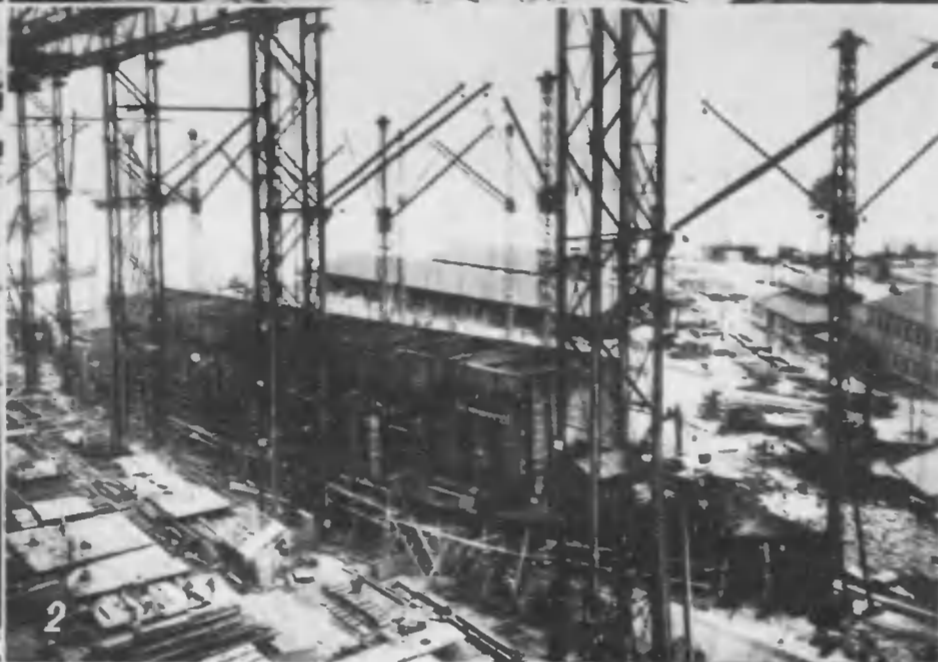
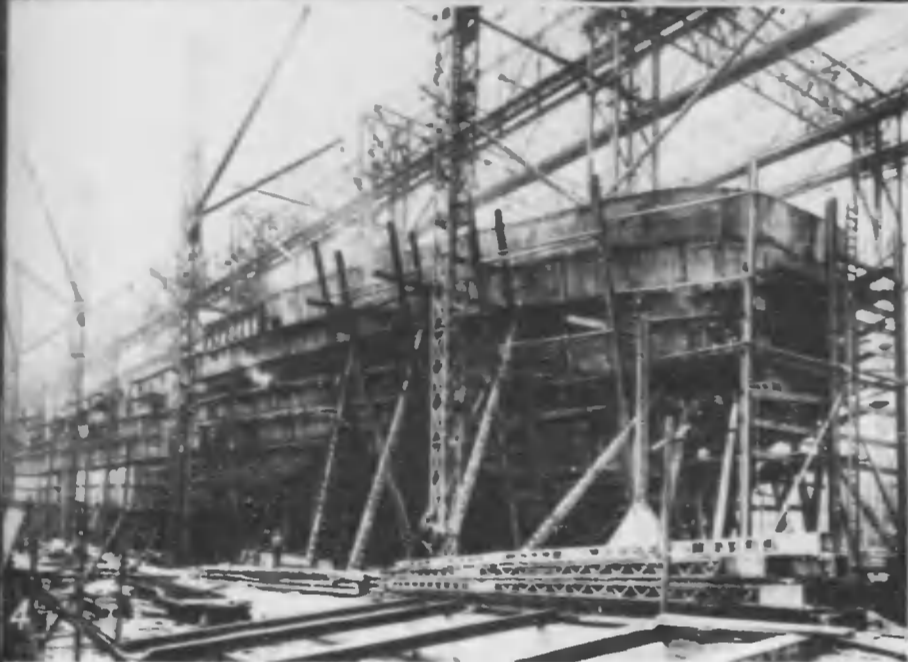
以上如く、商船は一旦有事の際には軍需物資の輸送等の軍用に供せられるのみならず、資源の確保は勿論、對中立國との一般交通を維持する任務を有し、自國に有力な商船隊をもつことは國家存立の上から見て絶対に必要不可欠なものである。

海運事業はあらゆる事業の中で最も競争の激しい事業である。殊に國際的競争に當る事業であるから、その航路などについては、國家の保護援助に依つた充分な發展を遂げなければならぬ。今こゝまで、本邦商船隊は世界七洋に雄飛し、全世界にはほとんど日本旗の船隻を印するに至つてゐるが、これに満足してはならない。努力奮闘し、同時に進歩的、海洋航路補助法等の政府の長年月に亘る補助と、官民協力一致の結果であつた。然、近來國策の自國船隻強化方針は益々強固、政府としては海運業の發展を更に促進し、對外航路の刷新を急務とする時勢に、出来るかぎり航路の刷新に意を用ひ、發展に努力してゐる。

一國の海運は世界第三位の海運國であるといへば、それは船隻の噸數からいつてのことである。それも第一位第二位の英米に比し、約二千五百萬噸内百分之五を以てしては達成が二割五分、米國は三割五分を以てしてゐるにすぎない。統計多量、又これを買ひ方から検討すると世界主要海運國に對し從來より、遜色をまねかたが、船隻の運力に關しては、船隻の點からいへば、貨物及び旅客の收容能力に關しては、遺憾の點が少くないといつて可い。

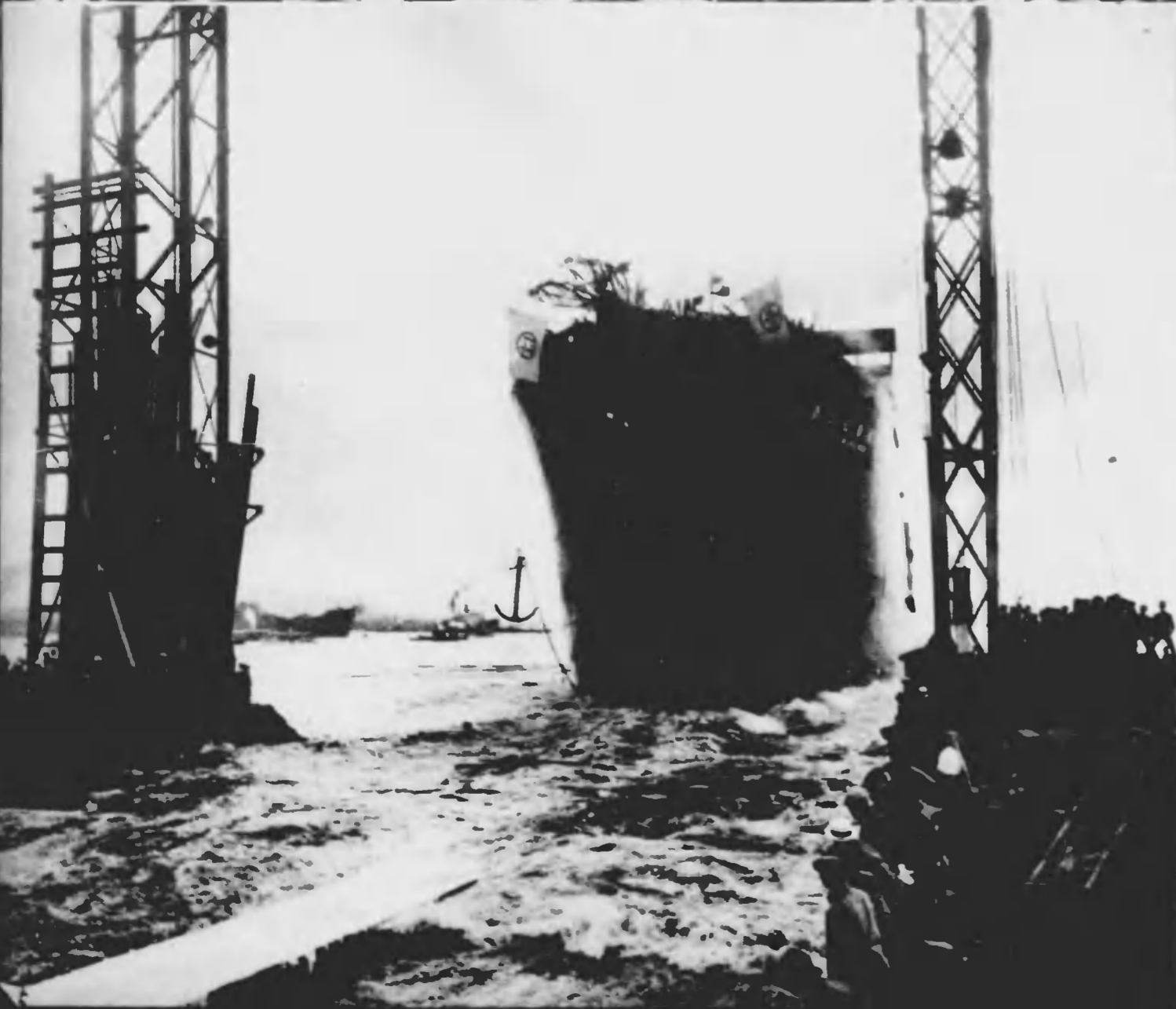
以上の質的兩面の點を根本的に修正すべく、先づ出たが、昭和七年から三年計畫で實行された船隻刷新政策であり、これらが國が他國に先んじて斷行した項目のものである。更に政府は昭和十二年から第一海運國策を制定し、四年にわたり三十萬噸の新造を目標に、優秀な船隻の刷新政策を以てし、本邦商船隊の刷新政策は、この結果買ひ方から、昭和十二年からは新らしい船隻刷新政策が實施され、四十餘萬噸の噸數が昨十二年中に達成され、今年もは同數の噸數が見込まれる。別に再来年竣工決定の二萬六千五百噸大噸位船隻刷新の計畫もある。

昨年七月、支那事變の勃發に伴ひ、急激に多量の船隻が軍用のため徴發され、船隻の備在、荷役と船隻の刷新の不調、運賃船費の騰貴等が招き、一時にわが國海運界に經濟的に相當な苦難を來したが、幸に關係者の協力によつて間もなく安定した。更に神戸を中心として海上國民精神總動員會が結成され、船隻刷新の急務は、當然として海運業の實をあげてゐる。



船舶試験所
 東京豊島区白子に通信省の船舶試験所がある。こゝでは試験依頼者から提出されたいろいろな注文条件に合せて精密なパラインの船型モデルを造り、それをプールの中に実際に浮かせて動かして細かい性能試験をし、その結果成績を依頼会社に報告するのが仕事である。
 之によつて船會社はその設計の合格不合格をきめ、合格すれば直ちに造船に着手することになる。

撮影 梅本忠男

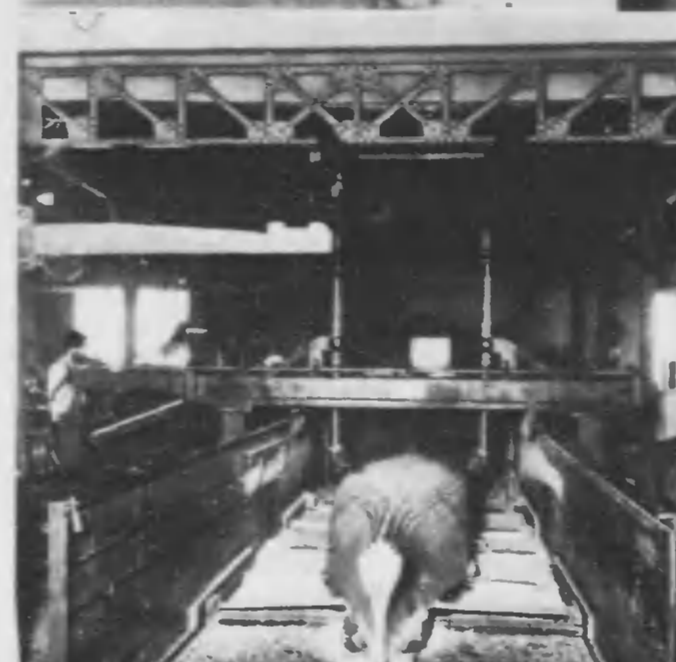


本日

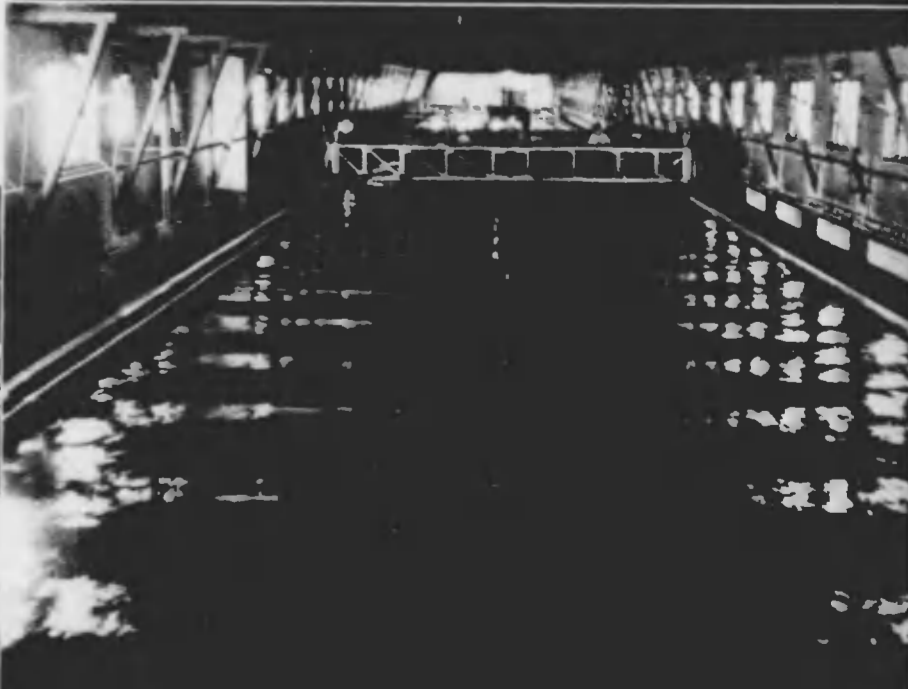
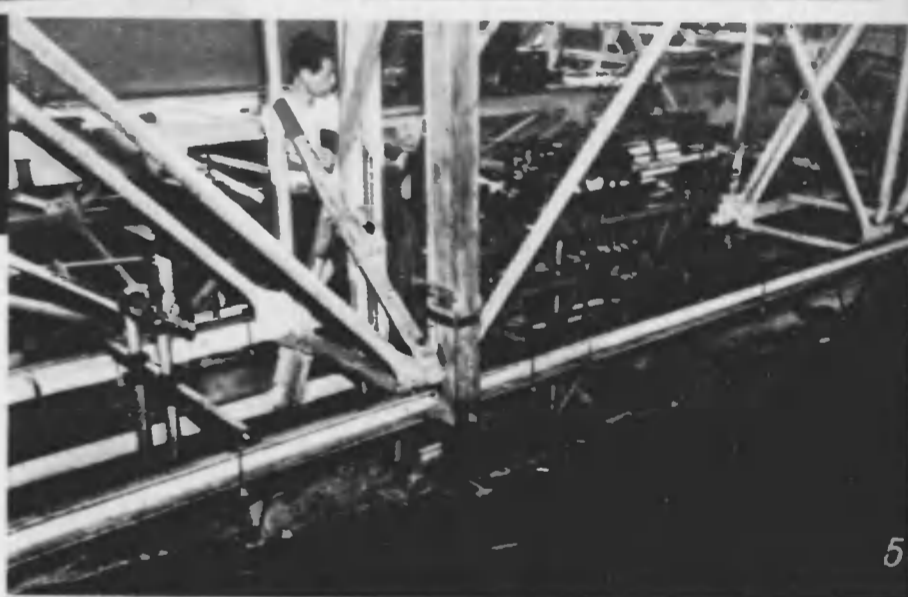
造船所
 世界の王座を目指す造船日本の威勢は全国數十ヶ所の造船所をして晝夜をわかつた作業に懸命ならしめる。今年六月の調査では數十噸に達する商船が龍骨据つけ或は外板取つけの最中である。このうち、貨物船が断然多く、貨客船、油槽船、特殊船がそれに次いでゐる。

1 去年十月完成、今夏南米洋に出漁中の捕鯨船第二日新丸(一萬七千噸)の造船工程「龍骨据つけ」が進み、
 2 油槽も出来上り、
 3 外板をはり出し、肋骨も立ち出した。
 4 船尾の大きい穴は捕鯨船の特徴で、つかまへた鯨をローで甲板に引上げる口。もう船體はほとんど完成に近い。
 5 鋭々苦の技術もここに報ひられ、仲間の船に脱福されて、かきやく誕生、連水式の帆をむかへる。(昭和十二年六月)

造船



1 依頼者から注文が来た、大理石の製圖版に精密な技術の線が一本々々ひかれてゆく。弾みの多い定規が魚型文庫におきへられて抵抗の少ない所謂流線型が描かれてゆく。
 2 出来上がった設計圖をもとにして少し大きめの石膏模型(左)が出来、熱いパラインを流し込む。そして流しつりのパラインモデルが出来、それを固め、夏だとこの水中に丸一日つけてなほ一層固めると冷水中には氷を入れて、
 3 コットンと音のする茶褐色のパラインモデルはコンウェイで製圖版の向きに平行に置かれ、左右相齊にシエービング・マシンの刃でデサインの線の通りけつぎ、
 4 船型モデルの線が同時にフロベラーもやはらかい金網で透られる。風船はフロベラーのピツチを測定するところ。寫眞はフロベラーのピツチを測定するところ。
 5 船型モデルは紙製だが、船十米、長さ百四十米もある。一試験等が重なる。試験は、船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 6 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 7 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 8 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 9 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 10 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 11 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 12 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 13 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 14 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 15 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 16 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 17 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 18 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 19 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 20 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 21 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 22 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 23 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 24 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 25 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 26 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 27 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 28 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 29 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 30 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 31 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 32 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 33 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 34 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 35 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 36 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 37 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 38 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 39 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 40 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 41 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 42 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 43 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 44 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 45 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 46 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 47 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 48 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 49 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 50 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 51 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 52 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 53 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 54 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 55 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 56 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 57 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 58 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 59 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 60 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 61 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 62 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 63 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 64 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 65 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 66 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 67 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 68 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 69 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 70 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 71 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 72 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 73 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 74 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 75 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 76 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 77 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 78 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 79 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 80 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 81 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 82 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 83 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 84 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 85 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 86 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 87 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 88 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 89 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 90 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 91 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 92 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 93 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 94 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 95 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 96 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 97 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 98 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 99 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、
 100 船の航行を模擬して、水中に浮かべ、



光の監視哨



海上輸送力の確保充實を期するためには、先づ直接に運航任務にあたる船員の優秀化をはからなければならぬ。そして本年三月二十四日、日本傳來の英風と時代の新しい船にそよ、從來の行きかきりを全くすたせ、第一體の海上國民精神動員聯盟が結成され、時局に關する認識の徹底、航海安全の確保、品性及び職位の向上等に積極的に乗りだしてゐる。こゝにも國防第二陣の顔母しさがあるのだ。

神戸で見かけた時局に協力する海員のスナップ

上、資糧愛護——使ひ古したロープを整理して活用する。

左上、貯蓄愛護——上陸前に天引で船内郵便局に貯金する若いマドロス

左下、精神強固——船内への運送の式、油に染み付いた手をあはせ、潮に灼けた頭をさげる敬虔な姿。

撮影 山田 光明

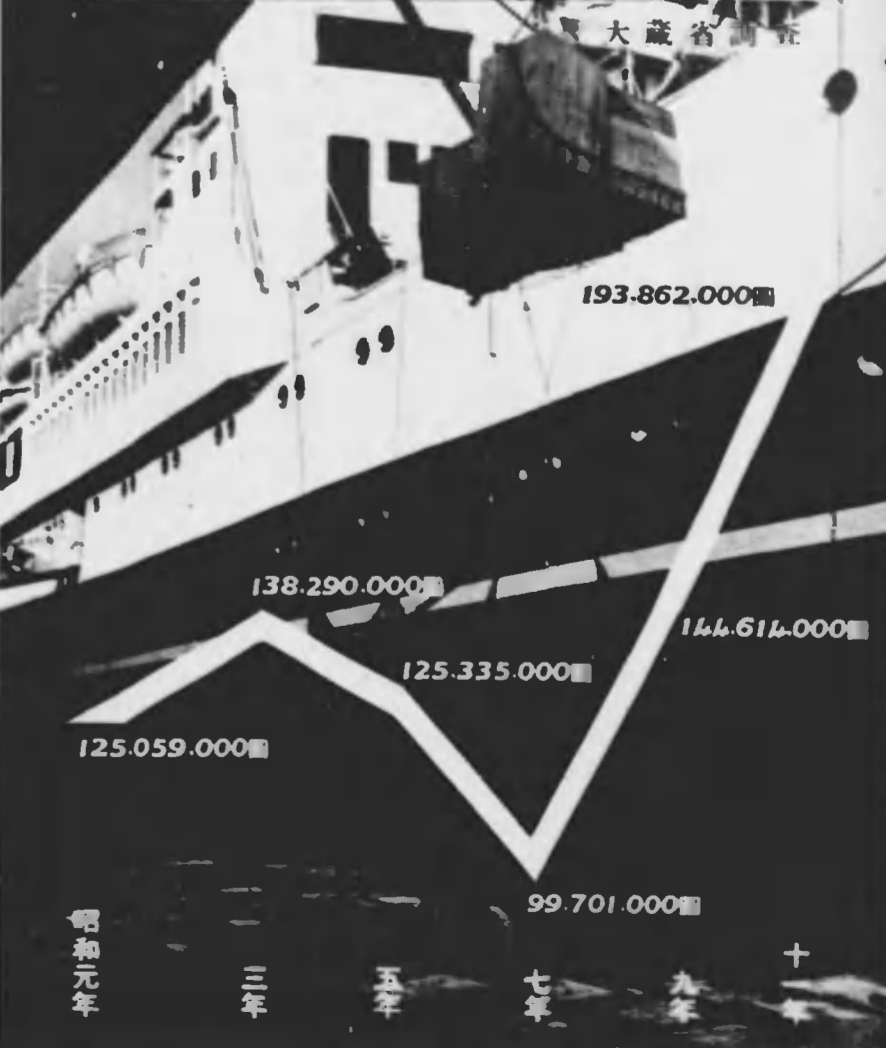


伊豆神子元島燈臺

世界海運國所有船舶噸數比較



我國海運關係純收入累年比較



燈臺の起源

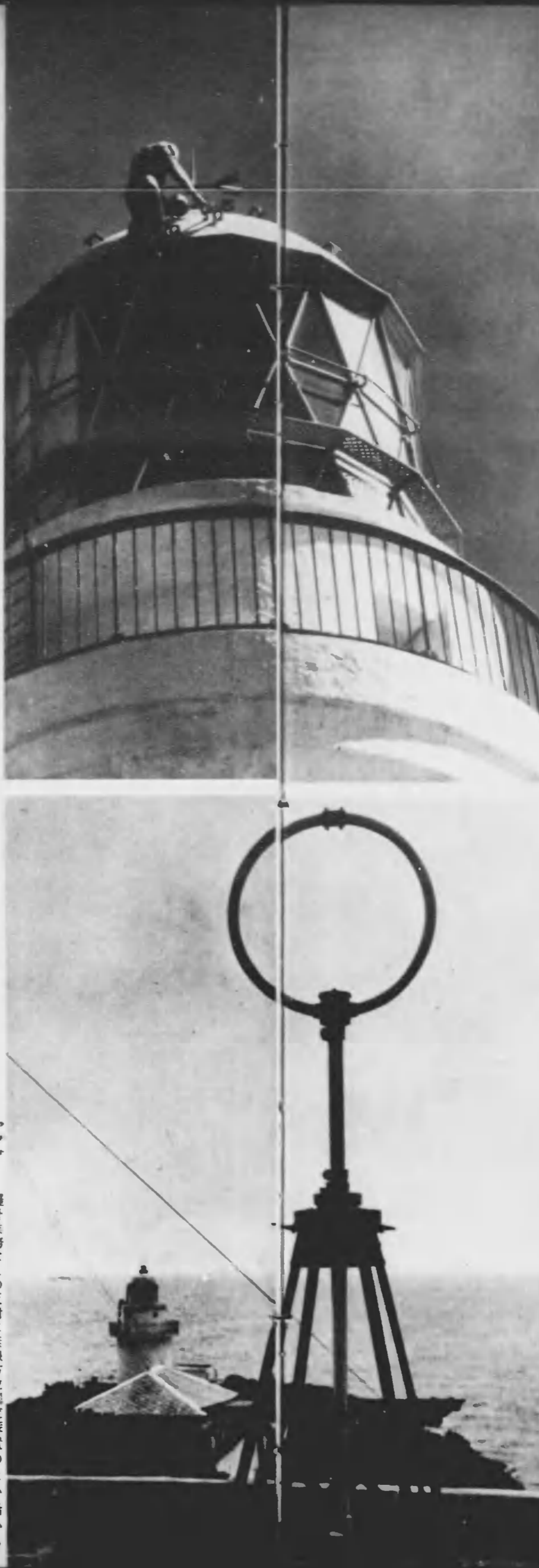
わが國に於ける燈臺の起源は天智天皇の三年に唐がわが國を襲はんとすを慮つて筑紫及び豊前島に防人を置いて烽火を擧げしめたのを承和六年遣唐使船歸省の目標としたのに始まりその後陸岸に水標を示すために標本を立てたといふ記事があるをみるにわが國としても昔から航路の標識を重視し、相當苦心を拂つたのである。

慶長十三年能登國能登浦に建設された燈臺は、石造の小燈塔の上に燈籠を設け、油障子を以つて蔽ひ、その中に築種油を燃灯したのであつて、これがわが國油燈臺の嚆矢である。その後わが國の標識には顯著な變遷も認められなかつたが安政六年鎖國廢絶開港以來貿易日々に盛となり、外國船の往來がはげしくなるに従つて従来のやうな不完全なものは船舶の安全が期せられたいところから慶應二年英、佛、蘭、米との間に締結した江戸條約に基いて英國人を顧問とし、新式諸器械を輸入して燈臺八基燈臺二艘の建設に着手したが明治二年相州磯崎の燈臺がわが國最初の洋式燈臺として落成した。そして燈臺看守定許外國人を聘して之に當らせられたから、我が燈臺事業は恰も西洋文明輸入の先驅であつたのである。かく一日進歩現在わが國航路標識数は内地偏地、わけて千六百餘に上つてゐる。

撮影 加藤恭平



これは光源の光力を二十倍に擴大する一対射レンズだ。十七年前までは専ら英佛國から輸入され、その價格は五萬圓から十萬圓であるが、今日では立派な國産品で給自足出来る。
攝機技手は潮風に曇り勝ちなレンズを毎日「チヤ」に丹に磨く。——神子元島燈臺



□ 少くとも一年に一度は白磁の塔も頂上の蓋蓋も塗り替へねばならない。
燈臺の蓋蓋の高さは海面から三十メートル、燈臺の高さは十八メートル、もし足をふみ外せば勿論命はない、せつせとヘンキを塗る技手の頭の上を夏雲が走る。
神子元島燈臺

□ 霧笛は蒸気または石油エンジンを運轉して壓縮空氣を作り、これによつてダイヤホーンサイレン等を吹き鳴らす装置になつてゐる。濃霧や吹雪の中を航行する船に取つて、燈臺から聞えて来る霧笛の音は何よりの頼りだ。濃霧のつく限り、霧笛を鳴らしつづける技手の勞苦はなみ大抵ではない。
大島燈臺

□ 航行中の船舶にその正確な位置を知らせてやる無線方位信標は無線探査業務と無線針業務の二つに分れる。無線探査業務といふのは一時間に二回づつ一定時に二分間をばツリオンワートン・ツリオンを發信する。無線方位測定装置のある船ではこれを聞いてその信標所と船との方向角を知り、更に他の一つの信標所からの無線信標を聞いて二つの方向線の交叉する所を以て船の位置とする。

無線針業務はこの反対に無線方位測定装置のない船から一船の方位測定したのむの無線方位測定機にら「トーン」があると、その電波を無線方位測定機にらけて船と信標所との方向角を測定しこれを船に通報してやる。船では他の一つの信標所と同様方位測定依頼して無線針業務を發信してその信標所と船との方向角を通報してらひ二つの方向線の交叉する所を以て船の位置とする。右、方位測定用のルーリアンナ。左、方位測定に應命の技手。
石室燈臺





太平洋の怒濤が真向からぶつかつては砕け散る巖頭に、屹然とそびえてゆるがぬ白壁の燈臺。光の監視塔は事變下の海をきつと睨みつける。

銚子一ノ島燈臺

撮影
逓信博物館



く聴に臺燈

太平洋の荒蕪が潤すべきの華と砕ける巖頭

太平洋の荒蕪が潤すべきの華と砕ける巖頭。今暮れたばかりの夏の宵、明星が二三つ赤子柑の水平線に浮び出した美しさに、恍惚として来た時、突然背後からさつと照らし出した光に驚かされた。

こゝ伊豆下田の孤島、神子元島燈臺が夜の活動を開始した。

海中から躍り出たやうな周囲二町にも足らぬ岩の上に、中空を画いて聳え立つ巨大な白磁の燈臺が、紅と白の光の兩腕をさし伸べ、夜の海の隅りについた。

「こんな所においてよしたか。探したのですよ。さあ、なにもありませんが、御飯を召し上つて下さい。」

こゝの燈臺の標識は「燈臺守だの、燈臺守だの」と、この人々を呼んだのは昔のこと。小山喜平治さんが岩間を縫つて夕餉の卓に迎へてくれた。

「いま、燈臺の灯をおつてになりましたね。ガス白熱燈を光源にしてあります。日没には灯をつけ、日の出には消しにあげてつべん送りへ行かぬばなりません。しかし石油燈といつても馬鹿にはなりませんよ。電力は千三百燭光、これがレンズで擴大されて、白燈が二萬六千燭光、紅燈が一萬四百燭光になります。専門語でいいますと、この燈臺は紅白交互二十秒一回の第一等燈臺で、光達距離十九哩半です。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「折射レンズの大ききです。向ふのそれ、下田の灯のすつと左に光りはじめましたね、あれは石室島の燈臺ですが、石室は第六等です。小山さんのあとについて、燈臺の根元から僅かに離れた窪地の官舎へと歩く。この官舎は明治三年英人技師プラットンが燈臺と同時に建てたものだといふだけに全く日本離れのした英國風の兵舎といった感じの建物だ。スコットランドの岬といつたエキゾチックな香りがする。

他の一人の技師生井秀蔵さんが、はか／＼の御飯に黒鯛の刺身を作つて待つてゐてくれた。今夜は持参の確詰料理と驚愕してゐたわれらの前に、これは思ひもかけぬ御馳走だ。

「こゝで漁れるのですか。」

「ええ、不漁な所ですが、魚だけは豊富ですよ。水と野菜には不自由をします。一本の雑草も満足に生えないこの島では野菜畑などといふ豪華なものには到底出来ませんので、下田から送つてもらひますが、それも数日で萎えてしまひますから、あとは玉葱やジャガイモだけです。水は天水を貯蔵してをきますが、これだけでは足りませんからやはり下田から送つてもらふのです。ですから餘程渾山雨でも降らない限り、入浴も洗濯も出来ません。」

「満目これ水といつた所にお住みになりながら、水で不自由をされるとは皮肉ですね。」

小山さんがふと食事の席を立つて行つたと思ふと事務所からラヂオが聞こえて来た。七時のニュースだ。戦線の記事が、銃後の活動がアノウンスされてゐる。絶海の孤島にラヂオが聴けやうとは、これも訪問者のわれらに思ひがけぬもの、一つだつた。平素海に聴いたのは丸で遠つた響きか身にしみる。

「これは昭和十一年十二月、皇太后陛下の御下賜金によつて全島の燈臺に備へられたものなんですよ。それまではかうした島に居て、本島とは何の連絡もなく、何の娯楽も持つことの出来なかつたわ／＼に、ラヂオの有難味は格別です。皇太后陛下の御仁慈に感謝するばかりです。」

「食事を終へて事務所に集まつたわれらに二人の技師はしみ／＼と感激の言葉を洩らす。

「暗くなりました。灯をつけませう。」

石油ランプが點けられた。四人の顔がほ／＼と

照し出される。戸外では瀟々たる音が遠くのやうに響く。

「淋しくもあるし、不便でもありませんが、でも朝夕燈臺に點燈し、消燈するだけで、あとは釣をしたり、讀書したり、ラヂオを聴いて楽しんでゐればよいのだから呑気ですね。」

「こゝの沖は歐洲航路、アメリカ航路、近海航路の、いはゞメインストリートですから通航する船の数は大へんなものです。それから毎日三回つゞぎ、温度、風向、雨量等氣象の観測、及び潮流の観測をして、これらの記録を纏めて海軍省の水路部と、中央氣象臺に報告するのです。又石室島、大島、大崎等島の燈臺では船にその正確な位置を知らせるための無線方位信標を晝夜の絶えまなくやつてゐますし、霧に悩む船には警音鐘をやりやう。」

「さうですか、それをいへば何人でおやりですか。」

「二人です。夫々二十日間の勤務を終へすと交代で下田の退所所に歸つて十日間の非番を家族と送ります。今、燈臺長の栗原さんは非番で陸へ上つてゐますよ。この交代のときに、食糧や水などを船で島へ運ぶのです。」

「その待ちに待たされた交代の日が来て下田に歸るときは歸りたが、所が、一たん海が時化たとなりますよ。御承知のやうに船庫が不完全ですから船が全然寄りつけません。交代の日が三日すか。」

「物品といひますと。」

「燈臺で一年間に使用する石油、石炭、機械部品、塗料、その他一切の日用品、例へば反物、薬品、等といつたものまでです。燈臺は何しろあの通りの不便な所が多いのですから。」



「一見ええ、来た、来た。一官舎の屋根の上に登つて一歩遠く下田方面を覗んでゐた小山さんが大きな聲で叫びました。燈臺長栗原君が今朝神子元島を訪問するといふことをわれらの知らせて知つた小山さんたちは早朝から歓迎準備で大奮闘。九月末まではなつかしの母島の訪れはなほあつた。この孤島に、思ひがけぬ喜びが降つてゐたのだ。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」

「さうですか、一等とか、二等とかいふのは何で決めるのですか。」



神子元島燈臺の位置



燈臺長栗原君



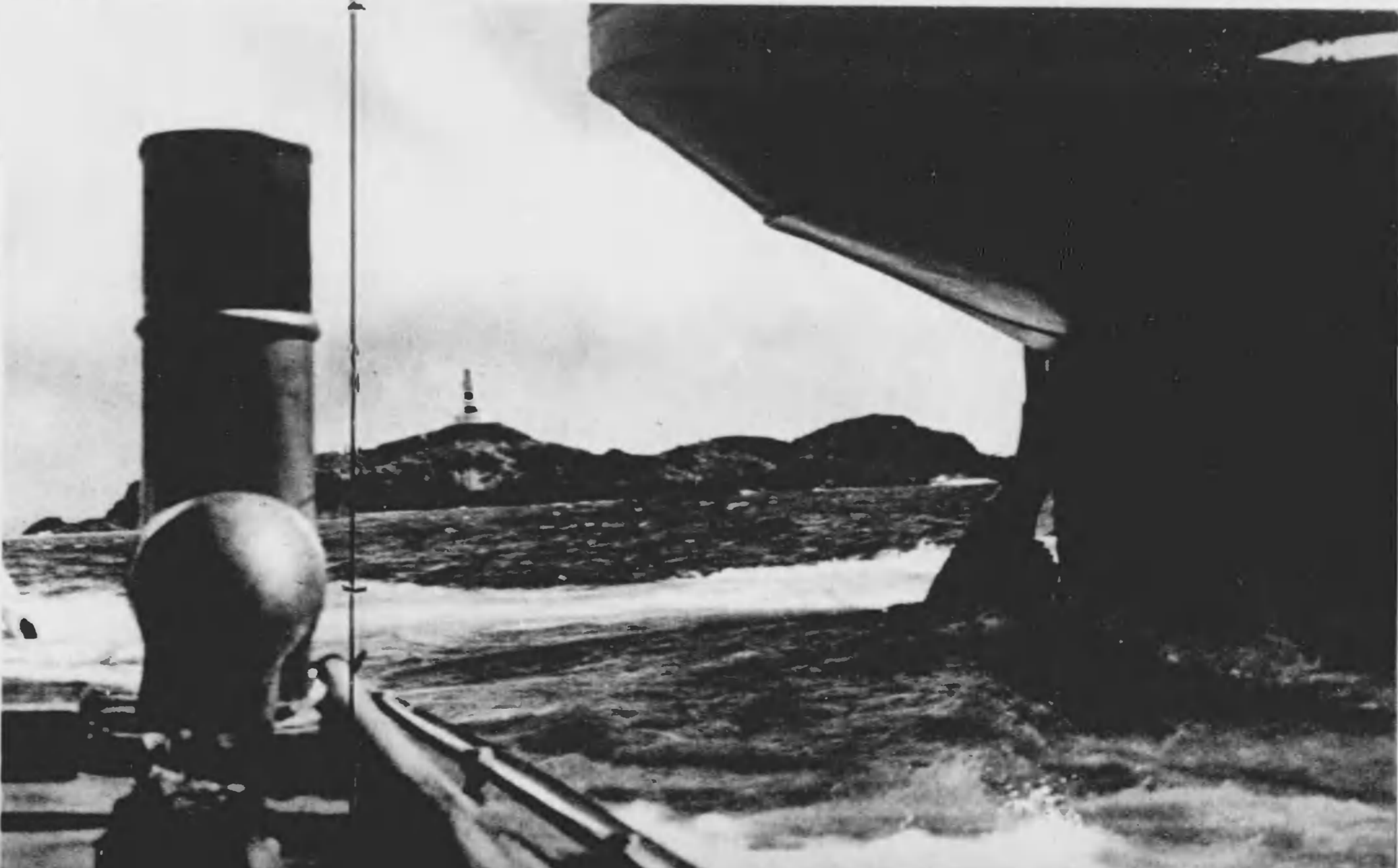
燈臺船に乗る

快晴だ、風だ。曙る朝日が海に、島に、燈臺に照らしつけ返る。



⊕ 打ち眺めた所何處か荒涼たる國境の
兵舎といつた感じのする椰子元島燈臺
の官舎、草一本満足に生えておない赤
黒い標岩の島に、奮闘する二つの生命
を守る。
暴風の目には、吹きとはされぬや
らに、中央に見えるローフに縋つて點
燈に行く。

⊖ 「さようなら」「さようなら」
折角一年振りに訪ねて来た人々を眞白
いランチはあつけなく運び去つて行つた
羅州丸はボートと一つ汽笛を吹き鳴らす
と次第に沖へ去つて行く。淋しがつちや
いかん、と心にはいひきかせても、眼頭
が熱くなつてくるのをどうしやうもない



⊕ 燈臺視察船羅州丸は椰子元島の
沖についた。暗礁が多いために直
接島に横付けすることは出来ない。
ランチが降ろされる。
小手をかざして見れば、白雲
の燈台は旭日をうけて碧空に輝く

上左
燈臺の人々は、視察長
はじめ羅州丸乗組の人々
ちともう古い馴染だ。
一年振りに迎へ迎へられ
たなつかしさに積る話は
盡きさらにもない。

⊖ あれを話したのだつた。これも傳
へておけばよかつた。しかしもう遅い
お別れだ。ボンボンとランチは軽快に
波を蹴つて歸つて来たが、妙に後髪を
引かれる思ひがする。速い潮流に流され
白い渦をよけて捲きかへしてゐる。眞

戦地から手紙が届いた。〇〇姓
 から〇〇姓の親友の〇〇上等兵
 からだ。暑いことはべらぼうに暑い
 日頃潮風でやけたからだだが、思
 つかつたよ。今日も文字通り約
 三つやうな炎熱の中を敗走の敵を
 追って十三四里の強行軍をやつた
 皆よく頑張つて歩いた。飲む水が
 なくれば汗は出ないものだが、
 たゞ有難いことに大陣では夕方に
 なると特別に涼しくなる。越つた
 と思ひた。〇〇に近この山麓から
 眺めると、大揚子江が夕陽を浴び
 て黒かに輝いてゐるのが見える。
 山の向ふからは時々思ひ出した
 うに敵の銃聲が聞えて来る。今夜
 はここで夜営、明日はいよいよ〇
 〇攻撃だ。君の家は皆連者かい。時局
 下の海を守る砲臺人の責務は大き
 い。君の折角の御奮闘を祈る。僕
 は元氣だ。なつかしい友の便りをよみ行け
 ば、妻も子供も見知らぬ戦地を想
 ぶ。石室崎砲臺

石室崎砲臺無線方位信標所の全
 景
 温泉の國、伊豆の最南端に立つ
 て、これは海運日本の表を夜を守
 りつづける科學の保衛だ。



砲臺に鳥がぶつかつて死ぬといふ話は有名だ。奇森縣の尻
 矢増砲臺などでは一夜に數萬羽の鳥が砲火を惹つて集り、砲
 臺のガラスに衝突して死んだ鳥の数が二千五百といふ記録が
 ある。又ひどい暴風の夜などには吹きつけられた鳥が厚さ
 一センチもあるガラス板をつき破つて砲臺にとび込むことも
 ある。きれいに拭き替へられた砲臺のガラス板を通して沖を望
 めば白い大きい船が行く。 朝子元馬砲臺

砲臺に食糧品を送り届けて町の船が埠
 をはなれると、あたふたと人影が崖の上
 に現はれ、いきなり手旗信標をはじめた
 「コノツギスイカタクム」
 船からは承知の合圖に大きく手旗をふ
 る。 石室崎砲臺

海 彼の方



カナダに奮戦する
山岸テ杯選手

デヴィス・カップ。アメリカン・ソ
ン決勝、日本対カナダ戦は八月十二
日からカナダのモントリオールのマ
ウント・ローヤルの庭球クラブで舉
行、接戦の結果日本は惜しくも三對
二で敗れた。寫眞はその前ニューヨーク
で練習中のが山岸テ杯選手。

◯ アメリカについた英獨
の大西洋横断機

大西洋定期航空路開設調査の英獨
兩航空機が期せずして米國ワシント
ン・ポトで翼を並べた。手前はド
イツ・ルフトハンザ會社のノルドメ
ア號、後のはイギリスの例の親子飛
行機の子供の方のマイキユリ號



◯ スデーテンドイ ツ人も身心鍛錬 に夢中

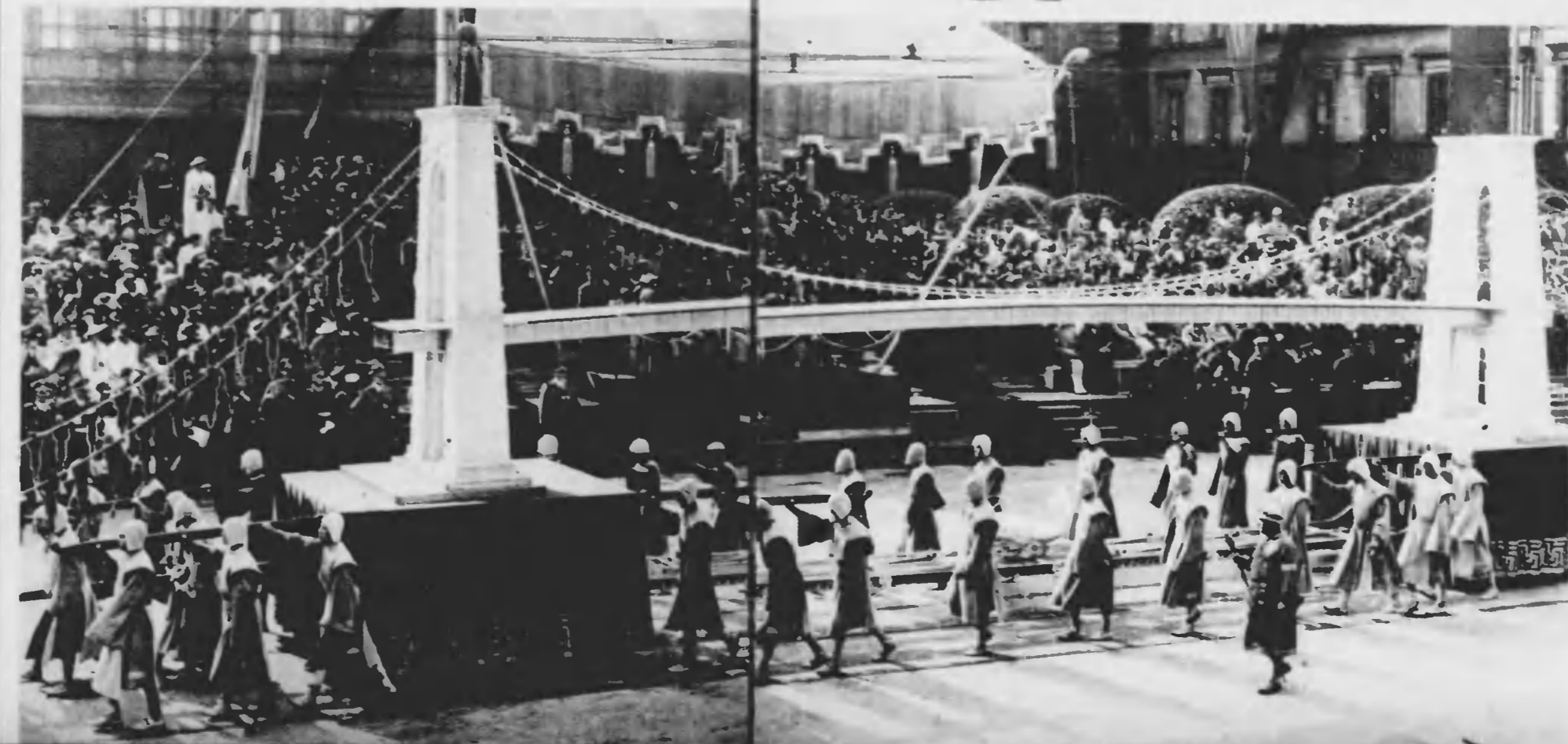
全ドイツ・スポーツ祭に参
加すべく、スデーテンドイ
ツの青年たちは各地の訓練場
に合宿、練習に餘念がない。
右はテフワツツ・シヨーナ
ウの勤務奉仕隊。
上はプレスラウの競技場で
柱體操の練習

◯ ミュンヘンのドイ ツ文化祭

光輝あるドイツ文化發祥二
千年を記念する文化祭がこの
ほどミュンヘン市で盛大に催
された。これは科學ドイツの
粹をあつめてエルベ河に建設
されることになつた大吊橋の
模倣である。

◯ チヤコ紛争圓滿解決

過去一世紀、南米の雄と目
されてゐた、ボリヴァ、パ
ラグアイ國境のグランチャコ
紛争は米洲六中立國の調停で
七月廿日アルゼンチン首府ブ
エノスアイレスで圓滿解決し
た。寫眞は左からデ・メデー
ナ・ボリヴァ外相、カンテイ
ヨ・アルゼンチン外相、パエ
ス・パラグアイ外相



支那事變國債 郵便局賣出し



大藏省

八月廿二日ヨリ九月二日マデ

十円券より千円券までの六種類
此の國債郵便局にていつでも買上りませう

憲報 昭和十三年三月十二日 第三種郵便物認可 昭和十三年八月廿四日發行 (隔週一回水曜日發行) 第廿八次

(本書の大きさは規定規格A4・一週報一倍刊)